

報 告 事 項

No. \_\_\_\_\_

報告先		報告者	原 田 稔
日 時	52年 11月 2日	曜日	時 分

報告・決裁

工藤氏の件

昨日の一報に→→→く 才之報  
あり。工藤氏の話をあき  
程度項目別に整理しました  
か。発言詳細です。この報  
告申し上げます。

① いま、宗女、注目の的は、常泉寺  
 に誰が入るかです。この人事が  
 現在の宗門の試金石といふので  
 しよう。これは、坊以達、噂で  
 するか。才了候補は大直寺です。  
 才了か阿部、才了か早瀬主任  
 理事です。

但し、讀政本内寺のように、親下が  
 兼務任取として、副に大直寺とツ  
 録も存之うれです。

とゆかく、大直寺が、本山格の常  
 泉寺に赴任(正式任取として)すよ  
 うである、これは、宗門の先はしれ  
 たります。せめて、阿部教字部長  
 にしてもなれば、極くごくは人の  
 少しですが、宗門に光明か  
 か之にかといふことにはなすべし。

◎現在、総下直継の弟子に対しては、  
 ある程度騒ぐはという方向の  
 抑之が入る、といふようです。栗林  
 は別として、専ら騒いでいるのは  
 傍系、連中です。ふつうなうは  
 彼等は、決して、あそこまで暴れ。  
 ことごとき、さういふところにおか  
 して、いふて、と、こゝろか、専ら騒いで  
 いることは、何か原因かと  
 いふと、総下にあります。総  
 下が直接、傍系、連中に電話  
 をして、しかりかんは、いふと、  
 ていふと、激励をしていふからです。  
 今回、本面にいふと、それを、確認  
 してまいりました。

※ 福島大布守、石井宗純と、  
 藤さんが懇談して、いふと、  
 話、石井宗純、石井信量  
 が、彼等は、いふと、いふと、  
 も、どうしようもいふと、いふと、



2-12. 聞いていゝ言が、混乱するは  
 かりです。しかも、その後すぐは、  
 それ2-12. よういふ訓諭がよいか  
 否かを之こくわとまて述べてあり  
 ます。

2-12. あれにもしゆ万が一のこ  
 とかあれは、すべしは入道寺に  
 任かたてあまかた。痛に、現の  
 代は、菅野慈玄がと一うことを  
 におおせていゝのです。

とかく、(M) との対訳といふ重んは  
 時、観下は、妙観会にけししか  
 はかたす。そのやり方も、給か  
 混乱するよふ言動です。

私はおりの～この席にはおしま  
 せか、帰道にきん夕張原  
 規道より、上のことを聞いて  
 懐疑したもりのです。

◎先日、先生には申し上げましたが、大直寺は、完全に次を組って、妙観会も、そうした雰囲気です。じ、さい大直寺では、所化、小僧達は、任取を、すに、御前様と呼称、して、いさうです。

◎現総下は、先師を雲の雑言する人はおりません。従来、衆内では、法灯連綿せしめ、べく、つねにあい時期すまると、隠守さか、習慣かありました。淳師の頃には、二人の隠守か、いたぐらゐです。しかも、そのか、人、御前様書字を、さか、い、る、の、と、す。高時の発展段階には、そう、ご、ら、の、と、す、から、今日、浮会、の、発展、に、志、し、て、早く、隠守、さ、か、は、と、願、う、と、い、う、の、と、す、か、と、う、て、い、ふ、り、な、願、望、と、し、ま、う、と、い、ふ、れ、現、総、下、は、淳、師、時、代、の

理想的に親制を全部変更にしてほしいとした。

宗会議員にしては、今は全くの形骸化です。親下の親族が、寛之のふいふしか当選できなかった。親は香田氏があります。詩長の野村字道だ、2. 田舎坊主です。詩長を認め格下はありませぬ。息子たちの理想をみても、これは明らかです。

札幌の正守、秋又海字さんか。かつては宗会議員でした。その当時から、あんな宗会では、とらうもない。何も言う気もしない。とゆかく、表向きには、大と気はしないとよく言、ておりました。我々北海道の坊さんが、そう言わず、せいの候補にしてくれと推したのですか。結局は厭気がさして、立ちまじんでした。

一から十まで、全部、自分ではうはないと気がすまはないのか、親下の本質です。

◎淳節は、正邪にフいは、大変厳しい  
 方とした。明治日隆上人は、在任  
 期間中、本山の木材を売却し、  
 私腹を肥やした経歴がある。  
 ところが、これについては、総監へ  
 昇る前は、いすれは丁代からは  
 ずしてしよとまで言われおき  
 ました。しかし、総監へ登る前  
 からは、一時は行方不明であり、  
 日隆上人の夫人を捜し出し、本山  
 に引き取り、最後まで面倒をか  
 ねた。こういうところは、今の総  
 下には、全くかわれぬ。それと  
 つか、批判はかりです。

◎これは昔から、変わらぬ。その意味  
 では、人望はなかにたいていあり。  
 淳節時代の伝説とに、総監は  
 任期二年で交代してかりました。  
 細井総監才了期後に、宗会が  
 二期総監を競争しました。

細井再任は、行はわれなか、れうどす。  
 當時の宗会は、外に反対でした。  
 此れを浮師か、(細井も大變なう  
 るから、寺、こ上げようじ)と  
 一言こ、再任とな、れ、経緯があり  
 ます。此れはと、寺、こ、此師  
 に対し、現在の仕打ちは、全く  
 お話はなりません。

◎ (僧侶一致にっこ) 浮師は、よく  
 次のように言、こありました。'水魚  
 の思、を成してと御書にありか  
 私、は宗門か水であり、宗会は  
 魚、と思、。もしも水か濁、こ  
 しては、魚は住まなくな、。  
 水、とは、水溜、金魚も人が  
 鑑賞する、に、水、つう、人は、  
 之、氣に泳、く金魚を、か、心、あ、う。  
 水、には、注目、しない、。しかし、本、当  
 の、識、者、は、まず、水、か、と、う  
 か、と、月、を、つ、り、。宗、門、と、宗、会、も

これによいのだ。それを水であふ  
 糸竹が生じれば、これはいけい。  
 糸竹は陰の字云が表でよいの  
 だ。

私は、この言をば、きり覚之におり  
 まり。この精神でなぐては、いけい。

◎ かつこあふ所化 (得度してから半年)  
 か、先輩所化より おれは酔、こ  
 酩酊したしま、た。授戒の務め  
 をお前かやれといわれ、大考悩  
 めました。そのことと、しつは字云が  
 部に指導をうけにいきました。  
 ところか、その後ろを尾行させら  
 れた。すくさま本仏に一報か  
 べり。親下から「所化のくせに  
 字云が部に指導をうけよとは何  
 事か! お前はクセだ」との  
 一言があり、遷俗させられ  
 ました。本部へ行、たれ  
 1/2-クセにすよとは、アキれておか

言之よし。企てこの調子で教育  
していよつてから――

◎しおしはから、こうしん中にも、あしつ  
週逆に気がついて、くさ省かお始  
めとありませう。

福岡林玄年寄の石井采純も、  
一人の。先主からの伝言も伝之  
さうに、御供養も頂いて、初めに  
先主に手紙をさし上げると喜んで  
話、とありませう。彼も、月深氏  
の葬儀に出陣しましなにか、初め  
て、先主を月の前で拝むことか  
でさると喜んでのみはうす。ああ  
も先主の宗門に参上され、交を  
見ると思おす。先主の方を伺い  
て題目を上げさし、たと述へ  
てありませう。彼については、  
もう、何の心配もなく、話せよ  
仲間になつたと思、とありませう。

○尾花泰順氏の最近相当悩んで  
 いるようです。本日の本みでも、こ  
 の話をしたいと私のところへ  
 言ってきました。私の方は、この  
 節分がありましたので、今日は  
 勝妙寺と、石川さんの二人で懇談し  
 ているはずで。

あの人も、一時は、体制派に入り  
 かけをおりまじらせたが、やはり原  
 因は喜ばせられぬものでしょう。  
 じっくり懇談して、何とかするつも  
 りです。

○(法華講にっし) 法華講で一番  
 物がおかしく、この頃は早水さん  
 の夫人です。あの人は前々から  
 学会に入りぬい入りぬいとゆう  
 じやあり、かつ、そのことと先生  
 にも指馬をうりなことがあり  
 ます。今は、表面からかいて  
 ありませんが、法華講では、あの

この学会がいつかは有名です。

男の子の物のおか、こい、こい、私はよくわかりません。

但し、法華講連心会の中にも、本行寺は、昔「恋心」をいまり、あそこの法華講は「本行会」と称して、連心会の中にも、少々、あか方としとおりまゝ。長年、阿部教字部長が、面倒をみてきました。今こも、重要問題は、高野永清さんでは、京師の方へ、伺い、おきてこい、まゝです。

◎高野永清さんも、たまには、よいことおき、こおりまゝ。先月、10月14日に、文月深氏の誕生祝いで、弟子が、一同に会しました。そのとき、あそ、弟子が、最近、法華講か、お小のことも、御導師

といふ、すはに。○○さんと呼んだ。  
 とんておはい、と。永清氏に。  
 相談をゆかりました。そのとき  
 に、永清氏答へて、それは、  
 あり前だ。うらの松平講ゆ。  
 おれつことをり、して是をいへ  
 とは言わぬ。永清さんへ  
 よ。「先生」といふ具合に、尊敬  
 に呼んでくたさいといふのは、字  
 会にけです。これにむしう。思  
 達は感謝せおはいかんの  
 ためと語、をかりました。

以上